

乳幼児を対象とする歌唱教材に関する研究

— 学生へのアンケート調査を通して —

A Study on Singing Material for Infants
— Through a Questionnaire Survey to College Students —

連 桃季恵 (人間科学部こども学科助教)

Tokie MURAJI (Faculty of Human Sciences, Department of Child Study, Assistant Professor)

〈要旨〉

乳幼児を対象とする歌には、わらべうた・遊びうた・手遊びうた・童謡などといった多様な歌が存在し、保育現場において活用されている。保育実習や幼稚園実習においても、学生自身が歌唱指導やわらべうた実践を指導案に取り入れたいと考えながらも、その際にどのように取り入れていいのか、またどのような活用方法があるのかについて、悩んだり不安に思ったりする学生の姿も見受けられる。そこで本研究では本学に在籍する保育者を目指す学生に対して、乳幼児を対象とする歌に関するアンケート調査を実施し、歌や音楽を扱う授業における効果的な授業内容を検討した。その結果、音楽表現に関する授業（本学では「保育内容・音楽表現」「保育教材研究Ⅲ」）においては、子どもの実際の様子が感じられる工夫や、歌を子どもに提示する際の多様な方法や展開方法を獲得できるような工夫を盛り込む必要があることなどが改めて確認された。

〈キーワード〉

乳幼児, 音楽表現, 歌, 教材研究

1 問題と目的

乳幼児を対象とする歌には、わらべうた・遊びうた・手遊びうた・童謡などといった多様な歌が存在する。またそれらは、乳幼児の発達や保育現場の生活の流れに合わせて、様々な場面に合わせて活用されている。そのため、保育者を目指す学生を対象とした保育実習や幼稚園実習では、学生自身が歌唱指導やわらべうた実践を指導案に取り入れたいと考える場合や、保育現場から歌唱指導等を取り入れてほしいという要望がある場合が多いように感じる。しかし、その際にどのように取り入れていいのか、またどのような活用方法があるのかについて、悩んだり不安に思ったりする学生の姿が見受けられる。

保育実習等における歌唱指導に関する研究として、木村・古寺(2017)は、幼稚園・保育園において行われている音楽活動について保育にかかわる方々へのインタビュー調査を実施しており、その中で、保育者を目指す学生たちの保育実習についても質問している。インタビュー調査の結果、保育実習生に関して「歌いながらピアノが弾けない／ピアノを間違えたら止まったり弾きなおす／子どもたちを見ながらピアノが弾けない／歌声が小さくて聞こえな

い／手遊びですぐできるものの準備ができておらず、準備している曲数が少ない／手遊びを歌う時の音程が気になる」という意見が出されたことが分かっている。また、平尾・滝沢(2017)は、幼稚園実習後の短期大学2年生を対象に、幼稚園実習での音楽との関わりについて質問紙調査を行っている。その結果、幼稚園教諭になるために今後の授業においてどのようなことを学びたいかという質問に対し、幼児の歌に関するレパトリーの拡大を選んだ人が一番多いことが分かっている。また、その背景として、学生が保育現場での子どもとのかかわりの中でその必要性を肌で感じたことを挙げ、授業や課題を通して少しでも多くのレパトリーを確保するためのきっかけを与えていく必要があることを指摘している。このように、保育実習・幼稚園実習において実施される音楽活動は歌を中心に実施されることが多いことや、すぐに行うことができる歌のレパトリーを多く獲得していることが保育現場から求められていること、またそれに関しては学生自身も必要性を感じていることが分かる。そのため、保育実習や幼稚園実習を行う学生、つまり保育者を目指す学生を対象とする歌や音楽を扱う授業においては、歌のレパトリーを増やす仕組み

を授業に組み込む必要があると考えられる。しかしながら、乳幼児に対する歌を多く知っていることのみが必ずしも乳幼児に対して豊かな音楽活動を提供できるわけではないだろう。

幼児の歌唱教材の選択において必要な基本条件として、佐藤(2008)は、「①歌いやすい音域のもの、②子どもたちの興味や経験に基づくもの、③簡単ですぐ覚えられるもの、④季節や行事に関連したもの、⑤遊びながら歌えるもの、⑥リズムカルなもの、⑦複雑な伴奏に頼らなくても良いもの」を挙げている。そのため、ただ歌のレパートリーを増やすだけでなく、対象児に合わせた歌の選択方法や多様な展開方法を獲得する必要がある。

そこで本研究は、金沢星稜大学人間科学部こども学科(以下、本学)に在籍する保育士や幼稚園教諭などの保育者を目指す学生に対して、乳幼児を対象とする歌に関してどのくらいの種類を知っているのか、また歌に対してどのような認識を持っているのか調査することを通して、実態と課題を把握し、歌や音楽を扱う授業における効果的な授業内容を検討することを目的とする。

2 方法

2-1 調査対象

本学のこども学科に在籍し、保育士や幼稚園教諭を目指す学生(2年次生23名、3年次生23名、4年次生13名、合計59名)を対象とした。

2-2 調査期間

2017年10月において、2年次は「保育教材研究Ⅲ」の授業内において、3年次は「保育実習Ⅰ事前・事後指導」授業、4年次は「教職実践演習A(幼稚園)」の授業内にアンケート調査の趣旨を説明し、授業内もしくは後日においてアンケートを回収した。回収率は97%(2年次生23名、3年次生22名、4年次生12名、合計57名)であった。

2-3 調査内容

調査内容は、乳幼児を対象とする歌について質問する項目であった。まず、(1)保育園や幼稚園に通園していた時に歌った記憶のある歌や、学生になってから習得した歌の曲名を記入させた。次に、(1)で記入した歌のうち、(2)保育実習や保育体験、ゼミ活動、保育現場でのバイト等において保育者が歌っていたことで知ることができた曲名と、(3)歌の1番を少し曖昧だけど歌うことができる曲名に印をつけさせた。加えて、(1)で記入した歌のうち、(4)自分自身が一番好きな歌とその理由と、(5)子どもたちと一緒に歌ってみたい歌とその理由を記入させた。

3 結果と考察

3-1 知っている歌の種類に関して

学生自身が幼児期に歌った記憶のある曲や、学生になってから習得した曲など、乳幼児期に向けて用いられると思われる歌の曲名について集計した結果を示す。

まず各学年と全体に分けて、挙げられた歌の中で回数が多かった1位から40位までの曲に関して述べる(表1)。2年次生が回答した曲を概観すると、1年次において受講した「器楽Ⅰ、Ⅱ」の授業内容が大きく影響していると考えられた。2年次生が挙げた曲の1位から40位までの4分の3(75%)は、「器楽Ⅰ、Ⅱ」で使用している曲集(小林美実監修・井戸和秀編「いろいろな伴奏で弾けるこどものうた100」チャイルド本社)に掲載されている曲であり、且つ「器楽Ⅰ、Ⅱ」の授業内において学生がよく好んで弾き歌いをしてきた曲であった。つまり、1年次に一年間にわたって受講した授業内において、自身が練習したり、他の学生が弾いているのを見たりすることによって知った曲が、2年次生の歌に関する記憶の大部分を占めていたといえる。次に3年次生に関しては、2年次生に見られた傾向は弱まり、「おべんとうばこのうた」や「グーチョキパー」で、「いとまき」、「キャベツの中から」などのように手や指を動かしながら歌う曲が挙げられていた。また4年次生は、手や指を動かしながら歌う曲よりも、「世界中の子どもたちが」や「にじ」などといった近年作曲され保育現場等で歌われている歌唱曲がどの学年よりも多く挙げられていた。2、3、4年次生の全体を通してみると、回答された歌は季節や行事に関する歌であり、且つ昔から変わらず歌い継がれている曲が多く挙げられていることが分かる。しかし一方で民謡音階などを用いて歌われる“わらべうた”については全体の40位までには1曲も確認できなかった。

そのため、2、3、4年次生のすべての回答の中で挙げられたわらべうたを抽出し集計した。その結果、2年次生は13曲、3年次生は33曲、4年次生は15曲であり、全体では42曲が確認された(表2)。

また、保育現場において保育者が歌っていたことにより知ることができた曲に関しては、2年次生では17曲、3年次生では91曲、4年次生では57曲が挙げられ、全体としては137曲であった。その中で複数回答があった曲名と人数を表3に示す。単数回答としては、体を動かし友達とかかわりながら歌う「かもつれっしゃ」や、手などを動かして歌う「まあるいたまご」や「いわしのひらき」など、またわらべうたの「おふねがぎっちらこ」や「ととけっこう」など、様々な歌のジャンルが挙げられていた。

以上の結果をふまえると、学年ごとに回答された歌の種類が異なっていたことが分かった。このような結果の背景には、保育現場における体験や実習が関係しているように

表1 学生が知っている乳幼児を対象とした歌に関する集計結果

	2年次生	3年次生	4年次生	2, 3, 4年次生の合計
1	かえるのうた	チューリップ	あめふりくまのこ	チューリップ
2	チューリップ	とんぼのめがね	かたつむり	とんぼのめがね
3	とんぼのめがね	ちょうちょう	かえるのうた	かえるのうた
4	うみ	お正月	こいのぼり	うみ
5	お正月	七夕	さんぽ	お正月
6	ちょうちょう	あめふりくまのこ	世界中の子どもたち	大きな栗の木の下で
7	とんでったバナナ	海	森のくまさん	七夕
8	ひらいたひらいた	うれしいひなまつり	しゃぼん玉	ちょうちょう
9	大きな栗の木の下で	大きな栗の木の下で	ぞうさん	うれしいひなまつり
10	思い出のアルバム	まつぼっくり	どんぐりころころ	こいのぼり
11	七夕	しゃぼん玉	とんぼのめがね	かたつむり
12	春がきた	ぶんぶんぶん	犬のおまわりさん	キラキラ星
13	こいのぼり	あわてんぼうのサンタクロース	うれしいひなまつり	しゃぼん玉
14	すうじのうた	おべんとうばこのうた	バスごっこ	ぞうさん
15	うれしいひなまつり	キラキラ星	一年生になったら	どんぐりころころ
16	かたつむり	くいしんぼうのゴリラ	海	あめふりくまのこ
17	キラキラ星	こいのぼり	大きな栗の木の下で	ぶんぶんぶん
18	ぞうさん	かえるのうた	お正月	まつぼっくり
19	ぶんぶんぶん	グーチョキパーで	おばけなんてないさ	あわてんぼうのサンタクロース
20	夕やけこやけ	ジングルベル	おもちゃのチャチャチャ	犬のおまわりさん
21	あわてんぼうのサンタクロース	どんぐりころころ	キラキラ星	おもちゃのチャチャチャ
22	おもちゃのチャチャチャ	いとまき	チューリップ	雪
23	どんぐりころころ	キャベツの中から	アイアイ	森のくまさん
24	虫の声	ぞうさん	大きな古時計	夕やけこやけ
25	雪	雪	おべんとうばこのうた	思い出のアルバム
26	犬のおまわりさん	かたつむり	思い出のアルバム	ジングルベル
27	もみじ	トントントントンひげじいさん	きのこ	とんでったバナナ
28	アルプス一万尺	どんな色が好き	七夕	おべんとうばこ
29	しゃぼん玉	アイアイ	とけいのうた	やきいもグーチョパー
30	ジングルベル	犬のおまわりさん	にじ	虫の声
31	日の丸	おもちゃのチャチャチャ	はたけのボルカ	アイアイ
32	まつぼっくり	さんぽ	はをみがましよう	豆まき
33	森のくまさん	はじまるよ	おかあさん	一年生になったら
34	やきいもグーチョパー	やきいもグーチョパー	カレンダーマーチ	さんぽ
35	ももたろう	バスごっこ	げんこつやまのたぬきさん	すうじのうた
36	山の音楽家	線路は続くよどこまでも	幸せなら手をたたこう	ドレミのうた
37	一年生になったら	ドレミのうた	線路はつづくよどこまでも	キャベツの中から
38	誕生日の歌(ママ)	虫の声	手のひらを太陽に	バスごっこ
39	小さい秋みつけた	むすんでひらいて	ドレミのうた	山の音楽家
40	ドレミのうた	赤鼻のトナカイ	パンダウサギコアラ	線路はつづくよどこまでも

思われた。まず、2年次生においては、保育現場における体験は3日間程度しかまだ行われていないことに加えて、音楽表現に関する授業（本学では「保育内容・音楽表現」「保育教材研究Ⅲ」は2年次後期に開講）をアンケート調査実施時は受講当初であった。そのため、1年次に受講した「器楽Ⅰ、Ⅱ」での経験が回答に大きく影響したと考えられる。また、3、4年次生においても異なる結果となった。3、4年次生とでは、回答する学生数の違いも関係し

ていると考えられるが、本学のカリキュラム変更が影響しているように思われた。本学は2015年度入学生よりカリキュラムを変更しており、幼稚園教諭1種免許状に加えて保育士資格が取得可能になったが、それ以前においては幼稚園教諭1種免許状のみの取得となり保育所（園）での実習は行われていない。今年度においては4年次生のみが旧カリキュラムの対象であるため、4年次生の中には学外において保育所等でボランティアやアルバイトをしている学生

表2 学生が知っている歌として挙げたわらべうたの曲名と人数

2年次生		3年次生				4年次生	
ひらいたひらいた	14人	げんこつやまのたぬきさん	7人	おおなみなみ	1人	げんこつやまのたぬきさん	4人
ずいずいずっころばし	5人	いっぼんばしこちょこちょ	5人	おすわりやす	1人	ずいずいずっころばし	3人
あんたがたどこさ	3人	かごめかごめ	4人	おちゃらかはい	1人	ちゃちゃつぼ	3人
お寺の和尚さん	3人	どんぐりころちゃん	4人	お茶をのみにきてください	1人	あんたがたどこさ	2人
いっぼんばしこちょこちょ	2人	あんたがたどこさ	3人	おちょづ	1人	いっぼんばしこちょこちょ	1人
かごめかごめ	2人	ちゃちゃつぼ	3人	せんべい	1人	おておしておし	1人
ちゃちゃつぼ	2人	ずいずいずっころばし	2人	大根いっぼんこうてきて	1人	おふねがぎつちらこ	1人
あがりめさがりめ	1人	おせんべやけたかな	2人	だるまさん	1人	かごめ	1人
お茶をのみにきてください	1人	てるてるぼうず	2人	ちゅちゅこっことまれ	1人	からすのかずのこにしんのこ	1人
かもめかもめ	1人	通りゃんせ	2人	ちょちちょあわわ	1人	通りゃんせ	1人
げんこつやまのたぬきさん	1人	なべなべそこぬけ	1人	でんでらりゅうば	1人	ととけっこう	1人
通りゃんせ	1人	上がりめ下がりめ	1人	東京都日本橋	1人	はないちもんめ	1人
はないちもんめ	1人	あずきっちょ	1人	とんぼとんぼ	1人	ひらいたひらいた	1人
全13曲		あぶくたった	1人	にぎりばっちり	1人	ふくすけさん	1人
		いちりにりさんり	1人	ひらいたひらいた	1人	おおなみなみ	1人
		上から下から	1人	ふくすけさん	1人	全15曲	
		うさぎのもちつき	1人	全33曲			

表3 保育現場において保育者が歌っていることで知った曲名と人数

キャベツの中から	7人	3匹のこぶた	2人	世界中の子どもたちが	2人
あめふりくまのこ	6人	アイスクリーム	2人	先生とおともだち2人	2人
とんぼのめがね	6人	あくしゅでこんにちは	2人	小さな庭	2人
はじまるよ	5人	朝のうた	2人	ちゃちゃつぼ	2人
はをみがきましょう	5人	いっぴきのかえる	2人	とけいのうた	2人
きのこ	4人	いっぼんばしこちょこちょ	2人	トントントントンひげじいさん	2人
くいしんぼうのゴリラ	4人	うんどうかい	2人	にじ	2人
やきいもグーチーパー	4人	エビカニクス	2人	バスに乗ってゆられてる	2人
石川サンバ	3人	おおきなたいこ	2人	バスごっこ	2人
お母さん	3人	おはなしパチパチ	2人	はたけのポルカ	2人
ころころたまご	3人	かたつむり	2人	ふくすけさん	2人
さよならのうた	3人	かみなりどんがやってきた	2人	水遊び	2人
スイカの名産地	3人	カレーライス	2人	もろびとこぞりて	2人
とんでったバナナ	3人	ごんべさんの赤ちゃん	2人	らららぞうきん	2人
トントントントンアンパンマン	3人	さんぼ	2人	ロケットペンギン	2人
どんな色が好き	3人	しゃぼん玉	2人	ロンドン橋	2人
はらぺこあおむし	3人	ずいずいずっころばし	2人		

もいるが、低年齢児を対象とした保育実習を経験していない。一方で3年次生は2016年度の3日間程度の保育体験に加えて、2017年度の9月において0歳児から2歳児を対象とする保育実習（部分実習2回程度を含む）を2週間において経験している。この経験の違いが調査結果に影響しているのではないかと考えられる。つまり、実習における対象児の年齢の違いによって、学生自身や保育者が用いる歌の種類の違いが出たため、学生が習得した歌も異なる結果となったのではないかと推測される。

一方、学生が知っている歌の上位にはわらべうたが1曲も入らなかったが、保育現場において知ることができた歌

の中にはわらべうたが多く確認された結果をふまえると、学生がわらべうたを知ったり、実践したりする機会をより効果的に設ける必要性が感じられた。

3-2 学生自身が好きだと思う歌について

学生自身が好きな歌として挙げた曲とその理由について調査結果を述べる。好きな歌として複数回答されていた曲は、思い出のアルバム（6人）、にじ（5人）、さんぼ（3人）、あめふりくまのこ（2人）、幸せなら手をたたこう（2人）、どんないろがすき（2人）であった。単数回答の中には「アイスクリームのうた」や「いっぼんばしこちょこ

ちよ], 「なっとう」などが挙げられていた。

またその歌を好きな曲として挙げた理由についてまとめたものを以下に示す(表4)。その歌を好きな理由として「自分の幼児期によく歌ったから」といった回答が突出して多く挙げられた。続いて「歌詞が好きだから」や「実習等の経験により好きになった」という回答が多かった。この結果より、幼児期において友達と一緒に歌ったり、誕生会や卒園式で歌った経験は、大人になっても心に残るものであることが分かった。

さらに学年別にみると、2年次生は「自分の幼児期によく歌ったから(12人)」「歌詞が好きだから(7人)」、3年次生は「実習等の経験から好きになった(7人)」「自分の幼児期によく歌ったから(5人)」、4年次生は「自分の幼児期によく歌ったから(6人)」「歌詞が好きだから(2人)」「歌ったり聞いたりすると楽しいから(2人)」が理由として多く挙げられていた。2年次生と4年次生は概して同じ傾向であるが、3年次生に関しては保育実習において保育者が子どもたちと行っている様子を見たり、学生自身が部分実習に取り入れることで子どもたちが喜ぶ姿を目の当たりにしたことで好きになったという回答が一番多かった。前述したように3年次生はアンケート調査の直前に0歳児から2歳児を対象とした保育実習を実施しており、そこで体験したことが学生の記憶に鮮明に残っていたと考えられる。

表4 その歌を好きな曲として挙げた理由について

自分の幼児期によく歌ったから	23人
歌詞が好きだから	11人
実習等での経験から	8人
歌ったり聞いたりすると楽しいから	7人
歌うだけでなく展開方法を工夫できるから	6人
メロディーが好きだから	4人
歌いやすいから	5人
かわいいから	3人
テンポが良いから	2人
(その他)・ピアノ伴奏が好きだから・童謡だけど切ないから・最近耳にして印象的だった・大学の授業で合奏したことが思い出になっているから・リズムが好き	5人

3-3 子どもたちと歌ってみたい歌について

学生が子どもたちと歌ってみたいと思う歌として挙げた曲とその理由について調査結果を示す。子どもたちと一緒に歌ってみたいと思う歌に関して複数回答があった曲は、すうじのうた(4人)、どんないろがすき(4人)、バスごっこ(4人)、おばけなんてないさ(2人)、思い出のアルバム(2人)、おもちゃのチャチャチャ(2人)、カレンダーマーチ(2人)、幸せなら手をたたこう(2人)、ジングルベル(2人)、にじ(2人)、やきいもグーチーパー(2人)であった。単数回答の曲としては「鬼のパンツ」や「カレ

ーライスのうた]、「ももやももや」などが挙げられていた。

またその歌を挙げた理由の中で一番多く挙げられたのは「楽しく歌える、元気になる、明るくなる」と「手や足など身体を用いた動きがあるから」であり、続いて「実習等での経験から」であった(表5)。具体的には、「すうじのうた」を選択した2年次生は『子どもたちと一緒に歌ったら楽しそうだし、パープサートを使って遊べるから』、「どんないろがすき」を選択した3年次生は『子どもたちに好きな色を聞きながらコミュニケーションをとって歌うことができると思うから』、「カレンダーマーチ」を選択した4年次生は『幼稚園に実習に行ったときに子どもたちが楽しそうに歌っていたのが印象的だった』などといった理由を挙げている。また、4年次生の中には、特定の曲を挙げずに、『子どもたちの発達にあった季節の曲などを歌いたい』と回答した学生もいた。

学年別にみると、2年次生は「楽しく歌えるからなど(6人)」「手や足など身体を用いた動きがあるから(5人)」、3年次生は「実習等での経験から(4人)」「子どもたちとやり取りを楽しめるから(4人)」、4年次生は「楽しく歌えるからなど(4人)」「手や足など身体を用いた動きがあるから(3人)」が多く回答されていた。この結果においても、3年次生に関しては、実習において子どもの様子を実際に見たり感じたりしたことにより自信を持って子どもたちと歌ってみたいと思っているように感じられた。

表5 その歌を子どもたちと一緒に歌いたい理由について

楽しく歌える、元気になる、明るくなる	12人
手や足など身体を用いた動きがあるから	12人
実習等での経験から	8人
行事と関連させられるから	6人
子どもたちとやり取りを楽しめるから	6人
歌詞が好きだから	5人
幼児期の思い出から	3人
子どもたち同士がかかわることができるから	2人
メロディーが好きだから	2人
楽器を使うことができるから	2人
文化財を用いて歌うことができるから	2人
(その他) ・すぐに覚えられるから・心が温かくなってジーンとする曲だから・子どもたちと一緒に季節を楽しみたいから・季節に合っていて発達や環境にあっているもの・楽しく数字を覚えられる(2人)・ジャンケンの練習になる・幅広い年齢の子どもが歌えそうだから・この歌が好きだから・大学の授業で弾けるようになったから	10人

4 総合考察

本調査により、本学における保育者を目指す学生が乳幼児を対象とする歌に対してどのような認識を持ち、またどのような歌を心にとどめているのかが明らかになった。その中で、乳幼児を対象とする歌の種類を知ったり、子ども

たちと一緒に歌ってみたいと思う契機となり得る経験や知識として、以下に示す3つが考えられた。それぞれについて述べる。

①幼少期における歌を歌った経験

本調査において、幼少期に歌を歌った記憶が、学生自身の好きな歌に大きく影響していることが分かった。例えば、“だれにだってすてきなひ”という曲を自分自身が好きだと思ふ曲にも、子どもたちと一緒に歌ってみたい曲にも挙げた学生がいた。好きだと思ふ理由として『保育園の頃から、各月の誕生会の時に歌うのが楽しくて、楽しみだったから』と記し、子どもたちと一緒に歌うたい理由として『「イエーイ!」のところみんなでピースをすると楽しい気分になれるし、テンポも良いのでノリノリで歌うことができる』と回答していた。歌うことで心を躍らせた自分自身の経験が、子どもと楽しみたいという意欲や自信につながるといえる。

②保育実習や保育体験などにおける子どもと歌を介してかわった経験

3年次生や4年次生が保育実習などにおいて子どもたちの様子を見たり感じたりすることにより、その歌を好きになったり、もう一度その歌と一緒に歌ってみたいと思ったりすることが多く確認された。また2年次生においても、子どもたちと一緒に歌ってみたい歌に関する項目で、4人が“すうじのうた”を挙げていたが、その背景として本学の附属幼稚園での夏祭りの企画として“すうじのうた”のパネルシアターを2年次生の複数人で実演したことが関係していると推測される。つまり、自分自身が子どもの前で実際に行った経験は、鮮明に記憶にとどまるのと同時に、子どもたちが楽しんでくれる様子を実感とともに想像することを可能にし、もう一度子どもたちと歌ってみたいという気持ちにさせるのではないだろうか。

③子どもたちと歌う活動における展開方法に関する知識の獲得

学生は、子どもたちと一緒に歌ってみたい曲として、手

や足などの身体の動きを伴った歌や、子どもたちとのやり取りを楽しめる歌、言葉を活用して楽器遊びに展開できる歌、また行事に関連させられる歌など、ただ歌うだけでなく、子どもたちとかかわりを持ちながら楽しむことができる要素が含まれている歌を選択する傾向にあった。しかしながら、学生から回答された歌の種類はいわゆる広く知られた歌であり、展開方法も思いつきやすいのではないかと考えられる曲であった。そのため、学生の歌のレパートリーを増やす必要もあるが、子どもたちとの活動に結び付けるためには、歌を活用した活動の展開方法に関する知識の獲得を促していく必要があると考えられる。

以上のように、①のみは大学において経験することが不可能であるが、②と③の結果をふまえ、音楽表現に関する授業（本学では「保育内容・音楽表現」「保育教材研究Ⅲ」）においては、子ども実際の様子が感じられる工夫や、歌を子どもに提示する際の多様な方法や展開方法を獲得できるような工夫を盛り込む必要があることが改めて分かった。

一方、歌のレパートリーに関する課題も見えてきた。学生が知っている歌として回答した曲を概観すると、特に2年次生においてはピアノを用いた弾き歌い曲が多く、ピアノを用いずに“声”と“動き”のみで歌われることが多い曲数は少なかった。秋山（2012）は、保育の中で子どもが自発的に口ずさむ歌に関して、「遊び歌」の割合が40～50パーセントを占めていることを明らかにしている。そのため、遊びうた・手遊びうた・わらべうたといったピアノを用いずにどこでもだれとでも歌うことができる歌を体得していく仕組みを授業内容に組み込む必要があるだろう。

本研究においては、学生が子どもたちと歌を用いた活動に意欲的に取り組むために必要である授業内容を検討することにとどまったが、保育現場において「歌う」活動に求められている役割や、また子どもにとって有意義な「歌う」活動の在り方について今後検討していきたい。

引用文献

- 秋山治子 2012 今、都内の幼稚園・保育園（所）でどのような歌が歌われているのか：アンケートの集計と考察 白梅学園大学・短期大学 教育・福祉研究センター研究年報, 17, 40-46.
- 平尾憲嗣・滝沢ほだか 2017 保育者養成における幼児音楽の学びについて：幼稚園実習における音楽の活動に着目して 岡崎女子大学・岡崎女子短期大学研究紀要, 50, 57-65.
- 木村みどり・古寺有希 2017 保育園・幼稚園における音楽活

動に関する報告：実習生を受け入れる現場の状況 美作大学・美作大学短期大学部紀要, 62, 99-121.

佐藤真弓 2008 幼児のための歌唱教材に関する一考察 聖霊女子短期大学紀要, 36, 35-49.

参考文献

小林美実監修・井戸和秀編 1982 いろいろな伴奏で弾けるこどものうた100 チャイルド本社